

第8回 バンクーバーでの生活

テレビニュースの時間に、必ず、毎日の株価とか、為替のレートを報道していますね。いつも、皆さん見ておられますか？ カナダの生活で、その為替レートが一番気にかかる事になってしまいました。少し古いお話ですが、ニクソンがアメリカ大統領の時、1971年でしたか、ドルと金との交換を停止した事から為替が変動為替に変わりました。主な流れを見ますと、それまで1ドル360円だったのが、1974年頃には260円程度になり、1979年初めには半分の180円までドルの価値が下がったのです。その後、280円まで回復しました。が、その後、再びドルは低下して1988年頃に125円まで下がりました。1995年今から約20年前は、何と80円でした。そして2011年には最低の75円です。それは、360円時代から見ますと、何と約5分の1です。そして、今は、(2017年)111円となっています。それでも3分の1以下です。(注 2017年5月1日の時点)

もし、あなたが外国旅行を予定していましたら、やはり為替レートは大切なポイントになります。また、今のカナダドルは私が来た頃に比べますと、4分の1位の価値しかありません。アメリカドルより低い81~82円程度です。

さて、カナダには色々な国から多くの人々がやって来ています。世界中、どこからでもと言う感じです。でも、その中で近年飛び抜けて多いのが、中国本土からの移住者です。以前、ある経済学者が21世紀は中国の時代だと予言していましたが、近年のカナダでの移住者の数も中国が独占状態な感じです。国力を示す国民総生産額につきましては、確か、2009年に中国は日本を抜いて世界第2位となりました。そして、2015年の統計でその規模は日本の2倍半に達しています。アメリカに対しても、アメリカの6割まで到達しているのです。もう、この数字を見ましても世界の経済地図が大きく変わった事が判ると思います。

さて、本題に戻りましょう。

私が、カナダに移住して2年が経つ頃、日本では大阪万博がありました。1970年の事です。岡本太郎のあの太陽の塔を覚えていらっしゃいますか。私も・・・と言いたいのですが、その頃は、日本のニュースは全くこちらに入ってきて来ない状況でした。テレビニュースは勿論の事、日本語ラジオ放送もまだ、週に1時間あるかないかと言う状況でした。辛うじて、カナダのテレビ局が放送する大阪万博のニュースで知ったと言う状態でした。そう言う状態の中、日本人の友達同士で新しい週刊誌とか月刊誌などを回し読みをして、日本の事を知りました。中には、ビデオテープを日本から送ってもらっている友達もいて、それを借りて見る事もありました。また、私はラッキーな事に、航空会社に勤めている友人から2週間毎に、どっさり日本の新聞をまとめて頂いていました。それを読んで友達に回したりしていたのです。それから、日本の娯楽映画は週一回、日曜日の夜、一般の映画館で見る事ができました。映画館では、よく友達に会う事もできました。ですから、映画館は一種の日系人の社交場と言う感じもしていました。映画は、英語の字幕入りでした。時折、古い映画を2本立てでやっていました。

でも、バンクーバーはまだ良い方で、少し小さな田舎に住んでいますと、もう完全に日本からの情報は入って来ません。日本文化から完全に孤立した生活です。ですから、時折少し日本が恋しくなった時、私は

空港へ一人でブラリと行っていました。それは、昔、東北出身の若者が上野駅に行くのと同じ心境ではなかったかと思います。空港に行けば、何だか、日本とつながっているように思い、日本の香りがほのかに感じられるのです。

その頃の日本からの若い移住者は、男性はメカニック（自動車整備工）、女性はヘヤードレッサー（美容師）が多かったようです。でも、職種は様々でした。また、こちらへ来てから職替えをする人達もいました。その中には、日本からの団体旅行客の増加を見通して観光ガイド、お土産屋、あるいは日本料理店へと進む友達もいました。確かに、大阪万博を境に、こちらでも日本に対して色々興味を持たれる人が多くなり、料理では天ぷら、すし、すきやき等が日本料理の代表だった感じです。

ある男性友達は日本では高校の先生をしていたのですが、こちらでガーデナーの仕事に就いて日本庭園を造る会社を興した方もおられます。しかしながら、みんながみんな、カナダに住む事になった訳ではありません。色々な家庭事情とか、仕事事情によって、数年後に帰国される友達もいました。アバウトの数字ですが、多分、半数の人は日本へ帰国されたと思います。それは日本の生活水準が高く、素晴らしいと言う事が理由だと思います。その点、華僑で有名な中国人移住者は帰国される割合が低いと思います。こちらの生活レベルを体験したら、母国の生活には戻れないでしょう。

ところで、こちらで、その頃、美味しい食べ物を発見しました。それは、イタリアのピサなのです。日本にいる頃は、会社仲間とキャバレーとか、クラブでお酒を飲んだ後、最後にお寿司屋でお寿司を食べていました。それが、シメでした。ですから、お酒を飲んだら、即、シメはお寿司でした。でもこちらに来てそうは行きません。で、その代わりですが、手軽に食べるピサになってしまったのです。その頃は、とにかく、ピサトッサーと言うピサ職人いて、店頭でピサのキジをふり回して一つ一つ作っていました。時たま、キジが破けたりすると、他のキジを継ぎあてたりして修正していました。でも美味しいのです。日本のお好み焼きとは違い、手に持って手軽に食べれるのです。上に載せてもらうトッピングも色々注文できます。その頃のピサは、薄いキジで、パリパリしたのが主流でした。それを見て、いつかは日本でも流行るのではないかと思い、自分でも見様見真似で作ってみた事もあります。でも、本業としてやろうと言う決心は出来ませんでした。

さて、私は、父が突然逝った事があって気持ちが、結婚へと進んでいました。そして1970年の7月、24歳の時、今の妻と結婚したのでした。母には内緒でした。ですから、カナダでは既婚者、日本では独身者の二つの身分でした。ところで、造船所の工員から鉄工所の図面工へと職替えして、暫くの間、共稼ぎをしていました。でも、子供が生まれる事になり、経済面で現場に戻って仕事をする事になりました。図面工（ドラフトマン）を辞めて別の鉄工所を見つけて現場へと復帰しました。給料は直ぐに2倍ほどになりました。1972年の12月に長男、そして、2年後に、長女が生まれたのです。ですから、28歳で2児の父親となりました。勿論、長男の誕生の前に日本にも結婚届を出して、正式にカナダでも日本でも、夫婦となったのです。その後、6年後にもう一人、次女が生まれました。妻とは46年間、いまだに離婚もせず一緒に生活をしています。妻はその時、2歳年上で、今も、2歳年上です。（?）

ところで、海外に出る若い人達にとって結婚問題は、やはり、大きな問題だと思います。父が、満州に行く前にお見合い結婚をした訳は十分に理解出来ました。こちらで知り合った同じ移住者で3歳年上の男性がいました。彼は、結婚の話になると、日本に帰ってお見合いで決めるとの事でした。その理由は、こちらにいる女性はカナダ人にしても、日本人にしても、血筋がハッキリしていないので信用できないとの事でした。彼は、何度も、そのために日本へ帰っていました。そして、婚約が決まり、いよいよ結婚と言っ

ていたのですが、結婚前に二度ともダメになりました。そして、3度目の時は、めでたく結婚となって実現したのですが、お嫁さんは半年も経たない内に離婚して帰国してしまいました。理由は、判りませんが、友達もいなくて孤立したのかも知れません。また、日本とカナダとのカルチャーギャップに苦しんだのかも知れません。やはり、外国で生活すると言う事は色々な面で苦勞があり、現地にアダプト（適合）出来るか出来ないかで、結婚生活が決まると思います。あの頃は、今と比べて情報が閉ざされ、早く言えばロビンソンクルーソーの様な状況でしたからね。積極的に日本人、あるいは、カナダ人の中に溶け込んで行って、自らの行動範囲を広げなければ、楽しい毎日を過ごすことが難しかったのではないかと思います。離婚した彼はその後、若くしてガンになり 30 歳半ばで亡くなりました。すごく理想的な結婚を語っていたのですがね。現実には、厳しかったのです。

それから、笑い話になると思いますが、こちらに来て、英語ノイローゼになり、かなり重症で落ち込んでしまった人もいました。それこそ、何事も手につかないのです。それで結局、帰国したのです。すると、日本ではケロリと治ってしまったと言うのです。これ、本当のお話ですよ。

カルチャーショックは、やはり、個人差があって経験者でないと判らないかも知れません。私の場合は、今思うと、全くないと言うより、こちらでは、こちらの楽しみをして来たと言う事でしょうか。でも、古希を迎える頃になって、可笑しいカルチャーショックを感じるようになりました。その事は後の回で書きましょう。

．．． 次回へ ．．．